

平成21年度 事務事業シート(一般事務事業)

事務事業名	02第2次名古屋港管理組合地球温暖化対策実行計画の推進	コード	担当課	企画調整室環境保全センター
		4051602	連携担当課	

1 事務事業の目的・目標(PLAN)

政策の体系	政策名	4環境にやさしい港		
	基本施策名	05人と自然にやさしい港湾環境づくり		
	個別施策名	16港湾の温室効果ガスを削減する		
事務事業の概要 (簡潔にわかりやすく)		目標年度における事務・事業活動から排出される温室効果ガス総排出量の削減目標・取組内容を設定し、計画を確実に推進します。		
開始年度		平成 19 年度		
根拠法令・要綱等		地球温暖化対策の推進に関する法律		
事務事業の目的	対象 (誰を、何を)	本組合より発生する温室効果ガス総排出量		
	意図 (どういう状態にしたいのか)	削減し、環境負荷を低減する		
活動指標	事務事業の実績を測る指標	単 位	算出方法(式)・指標設定の考え方	最終目標 (年度・目標値)
	取組項目・取組事項報告回数	回	実行計画で定めている各所属推進委員から事務局への報告回数 (四半期ごと(4回/年度))	平成 23 年度 4
				平成 23 年度
成果指標	事務事業の目的の成果を測る指標	単 位	算出方法(式)・指標設定の考え方	最終目標 (年度・目標値)
	温室効果ガス排出量削減率	%	平成17年度を基準年度とした当該年度の温室効果ガス排出量削減率	平成 23 年度 -5
				平成 年度

2 事務事業の実施(DO)

事務事業の実施内容 <平成20年度> と 平成21年度以降、シート作成時点までに変更した実施内容(ある場合) (内容は具体的に)		平成19年4月に改定した「第2次名古屋港管理組合地球温暖化対策実行計画」に基づき、平成17年度を基準年として温室効果ガス総排出量削減を図っています。 同実行計画の定められている取組項目・取組事項について、四半期ごとの職場単位の報告、また、燃料等の月毎使用量の報告を四半期ごとに環境保全センターが受け、環境管理委員会に報告をし、全庁的な取組状況の把握に努めました。 最終的に、年度を通じた平成20年度の実績の報告を受け、集計結果については記者発表するとともに本組合ホームページにおいて一般に公表します。				
項 目		単 位	平成19年度 (決算額)	平成20年度 (決算見込額)	平成21年度 (予算額)	
事業費 a		千円	0	0	0	
人件費 b		千円	3,474	3,508	3,565	
職員数	正規職員	人	0.40	0.40	0.40	
	嘱託職員	人				
	合計	人	0.40	0.40	0.40	
総事業費 a+b=c		千円	3,474	3,508	3,565	
活動指標	取組項目・取組事項報告回数	目標	回	4	4	
		実績 d	回	4	4	
		単位コスト	千円(c/d)	869	877	
		目標				
成果指標	温室効果ガス排出量削減率	目標	%	-5	-5	
		実績	%	-0.1	-22.4	
		達成率	%	2.0	448.0	
		目標				
		実績				
		達成率	%			
備考(補足説明等)						

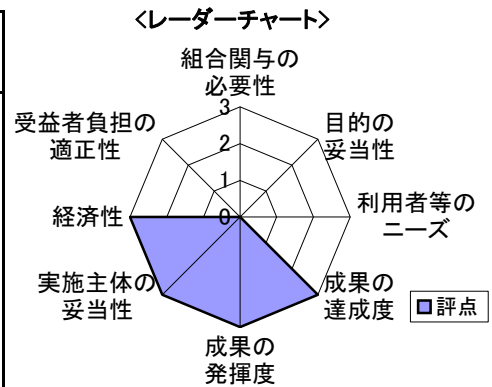
3 事務事業の検証<平成20年度実績>(CHECK)

視点	必要性	※各観点ごとに、該当する項目の点数(3~1)を評点欄に記入してください。法令や県市の条例等により実施が義務付けられた事務事業については、全ての観点到点数0を記入してください。	
観点	評点	点数	
組合 関与の 必要性	0	3	本組合が関与すべき事務事業である。
		2	本組合が関与すべき必要性が薄れてきている。
		1	本組合が関与すべき必要性が薄く、事務事業の存続について検討すべきである。
目的の 妥当性	0	3	事務事業の意図は個別施策の成果に結びついており、対象の設定も妥当である。
		2	他港湾の水準や民間競合等の観点から、対象や意図の見直しを検討する必要がある。
		1	事務事業の意図と個別施策の成果との結びつきが低下している。
利用者 等の ニーズ	0	3	ニーズの高い事務事業である。
		2	ニーズに変化がみられ、事務事業の見直しを検討する必要がある。
		1	ニーズが低下している、あるいは、ニーズと比較してサービスの供給が過剰又は不足となっている。

視点	有効性	※各観点ごとに、該当する項目の点数(3~1)を評点欄に記入してください。	
観点	評点	点数	
成果の 達成度	3	3	成果の目標を達成している。
		2	成果の目標を達成していないが、概ね計画どおりに推移している。
		1	成果の目標を達成しておらず、進捗が遅れている。
成果の 発揮度	3	3	事務事業の実施内容に見合った成果が得られている。
		2	事務事業の実施内容を見直すことで、さらなる成果の向上が期待できる。
		1	現在の成果は十分とは言えず、事務事業を継続しても、これ以上、成果の向上は期待できない。

視点	効率性	※各観点ごとに、該当する項目の点数(3~1)を評点欄に記入してください。「受益者負担の適正性」については、事務事業の性質上、該当しない場合は点数0を記入してください。	
観点	評点	点数	
実施 主体の 妥当性	3	3	民間など他の実施主体を活用している、あるいは、本組合が主体となって実施する必要がある。
		2	現段階では、本組合が主体的に実施する必要がある。
		1	他の実施主体の活用により、さらなる効率化は可能である。
経済性	3	3	継続的にコストの削減を進めており、これ以上コストを下げる余地がない。
		2	電子化等の事務改善、事業手法、委託先、契約方法の見直し等により、さらなるコスト削減が期待できる。
		1	単位コストが悪化しており、早急にコスト改善を図る必要がある。
受益者 負担の 適正性	0	3	受益者の負担割合は適正である。
		2	社会経済情勢や他団体の類似事業との比較から判断して、負担割合を見直す必要がある。
		1	社会経済情勢や他団体の類似事業との比較から判断して、相応の受益者負担を求める必要がある。

総合所見	※必要性、有効性、効率性の検証結果から課題・問題点等を整理します。	
事務事業の改善・見直しの余地	<input type="checkbox"/> 多い	<input checked="" type="checkbox"/> 少ない
(所見欄) ※判断理由、課題・問題点等を記入します。	※該当する項目をチェックします。	
平成19年度の結果を鑑み、平成20年度は「第2次名古屋港管理組合地球温暖化対策実行計画」を推進し、温室効果ガス排出量削減を図ってきました。平成20年度の結果は、基準年比22.4%削減と順調な取組結果が出ました。		



4 事務事業の改善(ACTION)

事務事業の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 終了	<input type="checkbox"/> 休廃止			
取組の方向性	<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 加速	<input type="checkbox"/> 減速	<input type="checkbox"/> 延伸
コスト削減裁量余地	<input type="checkbox"/> 有	<input checked="" type="checkbox"/> 無				

今後の改善策等(現実的かつ具体的に)	※個別施策管理シートの判定結果を踏まえ今後の改善策や取組方針を記述します。
平成20年度の温室効果ガス総排出量は、基準年度比22.4%削減となりました。しかし、(主な削減要因である)船舶の廃船による減少分を除くと、実質約4%削減となり、目標の5%を達成しておりません。このことから、平成21年度においても、一層の削減に向けた取組みを推進していきます。	